



牛
Beef
Boeuf
Rindfleisch
Manzo



豚
Pork
Porc
Schweinefleisch
Maiale



鶏
Chicken
Poulet
Hähnchen
Pelle



羊
Lamb
Agneau
Lamm
Agnello



魚
Fish
Poisson
Fisch
Pesce



貝
Shellfish
Coquillage
Muschel
Mollusca



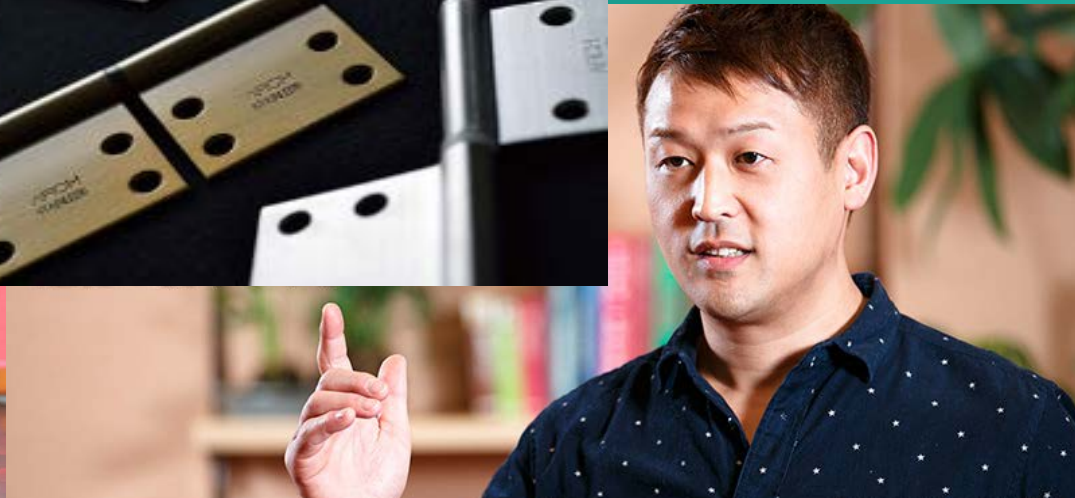
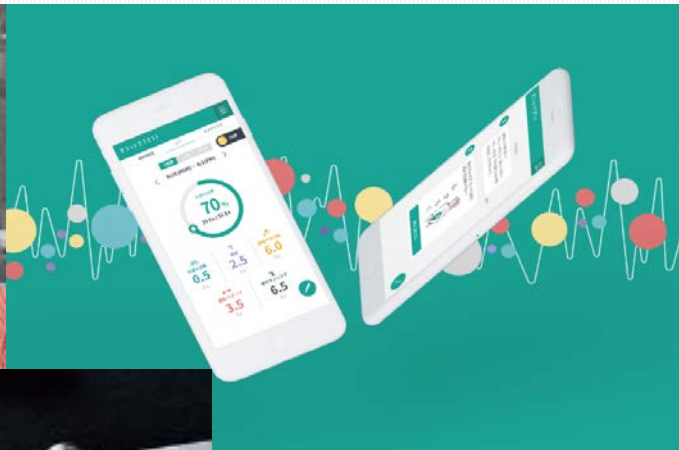
関西おもしろ企業事例集

～企業訪問から見える新たな

兆: KIZASHI～

創業1962年

日本伝統の西陣織の加工技術(カット、縫糸)を
現代アパレル、インテリア素材の糸に
日本の技術を守り、
新たな糸作りにチャレンジをしています。





学生に教えたい！ 社員と共に進化を続ける100年企業

プラスチック成形のプロフェッショナル

創業1914年の老舗ものづくり企業。金属看板、銘板づくりという小さな商いから始まり、現在は、自動車分野、家電分野等幅広い分野の「高品位」な外観部品を手がけるプラスチック成形のプロフェッショナルである。

変革を支える一貫生産体制

長年、大手家電向けの射出成形を請け負ってきた技術は他業界でも評価されており、現在は家電から自動車、アミューズメント分野に移行するなど、時代と共に変革を続けている。

同社の強みは、顧客のニーズに細かく応えながらデザイン提案から試作、金型、成形、仕上げ・組み立てまでの一貫生産体制を築いている点にあり、一貫生産体制を活かしながら真摯な対応により顧客の信頼を得てきたことが変革を支えている。

風通しの良い社風

「人を生かす」という企業理念が浸透しており、社長が定期的に発信しているトップメッセージに対し、社員が積極的に意見を出すなど風通しが良い職場である。

若手社員の意見も積極的に取り入れており、初の自社ブランドである「ヘルシーフットウォッシャー」は当初売上げが伸びていなかったが、若手社員主体で販促活動を行った結果、メディアで取り上げられるなど売上げを伸ばしている。

2018年にはこれらの取組が評価され、一般社団法人大阪府経営合理化協会より「第1回 学生に教えたい“働きがいのある企業大賞” 特別賞」を受賞した。

訪問 : 平成31年2月5日

創業年 : 1914年

業種 : プラスチック製品の製造、金型製作

本社所在地 : 大阪府東大阪市

代表者 : 山口 徹

URL :

<http://www.daimei.jp/>



約750年の歴史と伝統が培った 世界に通ずる和包丁の職人技

歴史的背景と伝統技術

菊一文珠四郎包永の包丁は、鎌倉時代中期から明治に至るまで皇室慶事の献上刀（写真は国宝指定の包永作鎌倉時代の献上刀。静嘉堂文庫美術館所蔵。）を作り続けてきた御番鍛冶の『心と技』を受け継いだ伝統ある打刃物である。

菊一文珠四郎包永の屋号は、寛永年間（1624～38）に、皇室より賜った『菊の紋』を刀の刻印として使用したことが起源とされている。その伝統は今も受け継がれており、菊一の打刃物には『菊の紋』が刻まれている。

積極的な海外展開

イギリスや日本の皇太子が訪れるなど、約750年もの歴史を有する由緒ある企業である。世界にも通じる和包丁の職人技を高めつつ継承していくために、精力的に海外展開へ取り組んでいる。実際、海外で日本の和食ブームの波が到来する中、いち早くニューヨークに拠点を構え、世界に通じる和包丁の職人技を海外へ披露している。

伝統技術と魅力をさらに世界に発信

海外の展示会については、ドイツのアンビエンテやシカゴのハウスウェアショー（8月と12月に開催）に出展実績があり、また近年はJETROの招致により、奈良の吉野杉箸や高山茶釜等と共同で、海外のギフトショーに参加し、伝統工芸としての和包丁の魅力を世界に発信している。

柳澤社長は、日本好きなアメリカ各地のバイヤーのネットワークであるJapanese culinary arts network（J-can）に所属し、日本食文化を通じて日本の伝統工芸の魅力を発信するため、ニューヨークにおけるテストマーケティングの実施を目指している。

訪問 : 平成30年9月14日

創業年：1267年

業種：刃物製造業（生活関連）

本社所在地：奈良県奈良市

代表者：柳澤 育代

URL：<https://www.kikuichi.com>

常に高い目標と意識を持ち続け
会社も従業員も常に成長し
進化し続けます。



代表取締役 笹原博之

福井から全国へ 下着を通じて「笑顔をお届けする」

親子三代が成すベンチャー型事業承継

すててこ株式会社は、初代の笹原重雄氏が戦後、衣料品の行商をして立ち上げ、2代目の修武氏が福進チェーンという形で衣料品量販店として展開し、3代目の現代表は下着専門の「すててこねっと」を運営するネット通販&商社として事業を運営している。

外部で学んだ知識を経営に

東証一部上場のゲンキー(株)の藤永社長が、福井から上場企業を出すために若手経営者育成のBBR勉強会を主催しており、この勉強会でランチェスター経営を学び戦略的な経営に移行できた点が大きな転機となった。

複数のネット店舗をつないで在庫管理を行うシステム、物流システム、人事評価制度、顧客管理、コンテンツマーケティングやアウトソーシング等の投資にも積極的。社長が外部で学んだ戦略を社内実践することで、会社の成長につなげている。

進化を止めない徹底した業務分析

ネット通販業者は通常複数のEC(電子商取引)モールで商品を取り扱い、それぞれに商品管理(価格設定の変更等)を行う必要がある。

そこで同社は商品を取り扱う複数のECモールの情報を同時に更新できるシステムを構築。新商品情報の全てのモールへの反映時間を2〜3週間→数十分で対応できる整備を実施。

常に徹底した自社業務分析を実施することで、浮いた業務時間をより付加価値の高い業務に充てるなど生産性向上の観点でも高い戦略性を持った代表者が特徴的である。

『下着で笑顔を』

インターネットを軸に事業を展開し、福井から日本全国へ、下着を通じてお客様に「笑顔をお届けする」ことを使命とし、「商品」「提案」「価格」「便利」を通じて、家族みんなを笑顔にする新たな価値を創造し、社会に貢献する。

訪問 : 平成30年2月26日

創業年 : 1946年

業種 : 建築金物の開発、製造

本社所在地 : 福井県あわら市

代表者 : 笹原 博之

URL : <https://suteteko.jp/>



「木製」にこだわる唯一無二のハンガーメーカー

創業73年の木製ハンガー専門メーカー

中田工芸株式会社は、1946年の創業以来、木製ハンガーを製造しているハンガー専門メーカーである。

木製ハンガーの製造から販売までを行うのは、全国で同社のみ。安価なプラスチック製のハンガーが主流の中で、木製ハンガーに特化した事業を展開している。

創業以来蓄積したハンガー作りのノウハウを随所に活かし、美しいデザインと機能性を備えたハンガーの生産に取り組んでいる。

自社ブランドを確立

従来は、主にアパレル会社向けに木製ハンガーの販売を行ってきたが、アパレル業界の景気変動の影響を受けてしまうことが課題であった。

そのような状況からの脱却を図るべく、自社ブランド「NAKATA HANGER」を確立し、一般消費者向けへも木製ハンガーの販売を開始した。

現在では、アパレルやホテル等の業務用だけではなく、家庭用やギフト・記念品用として幅広く木製ハンガーの販売を展開しており、今では、一般消費者向けの売上が全体の40%を占めている。

ブランドイメージを活かした販売戦略

「高級ハンガー」というブランドイメージを活かして、卒業記念品や結婚式の引き出物といった贈答品にハンガーを提案している。

2017年に運行を開始した豪華寝台列車「トワイライトエクスプレス瑞風」の客室にも同社のハンガーが採用されている。

ブランド認知度の向上を目指して

東京都内（青山）にショールーム「NAKATA HANGER」を設けており、ブランド認知度の向上につなげている。さまざまな色、ハンガーの感触、必要に応じたフォームの数々を直接手にとって触れてもらい、ハンガーをより身近に感じてもらえる機会を提供している。

また、SNSやマスコミを積極的に活用しており、「NAKATA HANGER」のブランド認知度のさらなる向上を図っている。

国内だけではなく、日本製のこだわりの木製ハンガーとして「NAKATA HANGER」の海外での販売を始めており、今後は海外への販路拡大を展開していく予定である。

訪問 : 平成30年6月29日

創業年 : 1946年

業種 : 木製ハンガー等製造販売

本社所在地 : 兵庫県豊岡市

代表者 : 中田 修平

URL : <http://nakatahanger.com>



国内トップシェアを誇る変幻自在の 丁番メーカー

建築丁番国内トップシェア

株式会社ニシムラは、建築金物、特に丁番（3次元調整丁番、長丁番、隠し丁番）の製造、開発を行っている。国内の生産額約6割のトップシェアを誇る丁番メーカー。

1935年に創業し、45年に大阪大空襲で工場が全焼し、事業中断を余儀なくされたが、47年に再開し現在の業界地位を築く不撓不屈の企業である。

先代の技術力を礎に

2016年に現社長が就任し、先代社長が築き上げてきた技術力を礎にしつつも、丁番だけでなく、ドア周りの建築金物すべてにおいて想像力溢れる製品開発を図っており、ドア周りの建築金物におけるスペシャリストとして挑戦を続けているベンチャー型事業承継といえる。

ロボットを使った検査体制

製品の耐久力検査のために、ドアの自動開閉を人の手を模したロボットを活用する等、検査体制を強化し、トップメーカーとしての地位に満足せず製品改良に取り組んでいる。

安全管理を徹底

過去、第2種無災害記録200万時間達成記録証受賞、「産業災害防止推進」に対し内閣総理大臣賞受賞するなど、従業員の安全確保を徹底している。また現在も約10年間事故がない。

変幻自在の対応力、製品力

主力製品である「3次元調整丁番」はドライバー一つでドアの位置を前後、上下、左右に動かして調整。経年により変形する木材建具に対する微調整を丁番の機能で可能とした。

他にも数十メートルにまで長さを自由に設定できる「長丁番」や、ドア内部に取り付けて外からは見えない美観に優れた「隠し丁番」など様々な商品を展開し、扉と一体化したフラットな形状と、扉表面側から指が挟まりにくい構造も含めた安全性が評価され建築金物としては稀有な事例としてグッドデザイン賞を受賞しているなど、トップシェア企業として進化を続けている。

訪問 : 平成30年11月5日

創業年 : 1935年

業種 : 建築金物の開発、製造

本社所在地 : 大阪府八尾市

代表者 : 西村 成広

URL : <https://www.nishimura-arch.co.jp/>



医療 × テクノロジーで、 人生に希望というエッセンスを

医療とテクノロジーを融合し、より多くの 人々の健康をサポート

株式会社バックテックは、「全人類が生き生きと暮らし、社会に貢献できる世界をつくる」という理念のもと2016年に、法人向けwebアプリ「ポケットセラピスト」を提供する大学発ベンチャーとして設立された。

対面ではなく、web上で10問ほどの質問に答えることで独自の判定アルゴリズムにより腰痛原因の解析や、痛み・原因にあった対処方法を示し、掲示板やチャットを通して理学療法士が相談対応を行うサービスを展開している。

学術的裏付けのあるヘルスケアビジネス

「ポケットセラピスト」のサービスは数々の研究に裏付けられており、最新の研究内容が随時反映されている。

サービスサポートを行う理学療法士には、厳しい試験・面接を突破した150名を超える優秀な人材をそろえており、担当者としてユーザーに寄り添い、きめ細かくサポートすることで、3か月後に87%と非常に高いサービス継続率を実現している。

創業者である福谷社長も理学療法士として7年間病院に勤め、2年前に京都大学の医学研究科で博士課程を修了（痛みに焦点を当てた重症化予防について研究）。現在も京都大学に「健康経営プロジェクト研究員」として籍を置いている。

従業員の健康を守る健康経営の推進に貢献

働き方改革や人手不足を背景に、従業員の健康保持や増進に投資を行う健康経営に注目が集まっている。同社のサービスは、企業が健康経営の取組の一環として導入し、従業員が利用するというビジネスモデルを展開している。

健康経営の取組が中小企業にも拡大する中、大企業を中心とした事業展開から、今後は中小企業や個人へのサービス拡大も期待される。

注目のヘルステックベンチャー

2018年には、国内最大規模のヘルステック・カンファレンスであるHealth 2.0 Asiaにおけるピッチコンテストにおいて、最優秀賞を受賞するなど注目のヘルステックベンチャー企業である。

訪問 : 平成30年8月24日

創業年：2016年
業種：健康経営支援としての肩こり・腰痛対策のwebアプリ

本社所在地：京都府京都市
代表者：福谷 直人

URL :
<https://www.backtech.co.jp/>



滋賀桐生の里が育んだ やさしい和紙ジャケット

西陣織向けの高い和紙加工技術

滋賀県大津市桐生地区は西陣織などに使われる金糸・銀糸用の近江雁皮紙の産地。

株式会社古川与助商店は、和紙を糸状に切断、巻き取りする加工（マイクロスリッター加工）や異素材（紙と金銀箔、紙とフィルム等）の貼り合わせ加工を行う和紙加工メーカーである。

和紙ジャケット・タオルの開発

和紙加工のみの下請け企業であることに危機感を覚えた現社長の河村朱美氏は、先代の時代から行っていた和紙加工に加え、和紙を使ったタオルやジャケット等の製造販売を開始するなど、思い切った事業展開を図った。

吸湿性に優れ丈夫な和紙糸を使ったジャケットやシャツは、軽くてやさしい風合いが特徴。洗濯もできる。

地域での情報発信も積極的に行い、オーダーメイドの和紙ジャケットの評判は口コミで広がり、滋賀県知事も着用するなど話題となっている。

和紙糸の魅力を世界に向けて

平成23年にロンドンの展示会に出展した和紙・糸・生地が好評を得たことをきっかけに、海外展開にも積極的である。

和紙の原料はマニラ麻と針葉樹で、最終的には土に還る自然のものであるため、ヨーロッパで評判が良い。

下請け業者からの脱却

現状では加工部門が収益の90%を占め、残りが最終製品（和紙タオル、ジャケット等）の収益であるが、今後さらに最終製品に注力していきたいとの考えている。

地域貢献の取り組み

社長自身が、特に引きこもりを重要な社会問題だと捉えており、同社では仕事があれば受け入れも前向きにしている。今後は取り組みがネットワーク化できないか検討しており、同社の技術を穏やかに育ててきた地域の課題解決に向けた取り組みにも積極的である。

訪問 : 平成30年9月20日

創業年 : 1962年

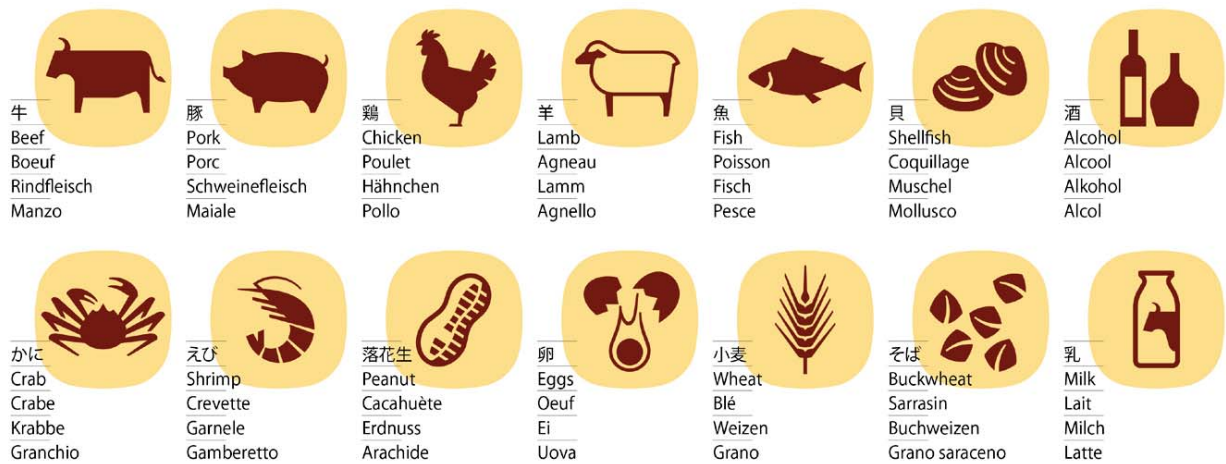
業種 : 和紙加工、和紙商品販売

本社所在地 : 滋賀県大津市

代表者 : 河村 朱美

URL :

<http://yosukeshiga.com/>



FOODPICT™ © INTERNASHOKUNAL & NDC Graphics

おいしい絵文字で世界をつなぐ FOODPICT™

食材用のピクトグラム「フードピクト」

株式会社フードピクトは、ピクトグラムを食材に応用した「フードピクト」のライセンス販売を主として、グルメポータルサイトの運営や研修事業、コンサルティング業務を行っている。

「フードピクト」は日本の玄関口である成田空港や関西空港をはじめ、全国755ヶ所1,400店を超える商業施設・ホテル・飲食店で採用されている。営業エリアは、京阪神を中心に関東や北海道など、インバウンド需要がある先をメインとしている。また、近年は商品パッケージや商品ラベルへの印字など、他社との連携にも力を入れている。

言葉を超えて

牛、豚、鶏、羊、魚、貝、アルコール、カニ、エビ、落花生、卵、小麦、そば、乳の14種類のイラストが食戒律のあるイスラム教、ユダヤ教、ヒンドゥー教やベジタリアン、食物アレルギーに関係する食材に対応している。言葉がわからなくてもメニューなどに表示されたイラストを見れば、食べられる料理が選べる。

ISO（国際標準化機構）とJIS（日本工業規格）のピクトグラム制作規則とCUD（カラー・ユニバーサル・デザイン）のガイドラインに基づき世界1,500名への国際調査を実施し、言葉や文化の違いを超えてすべての人に伝わる理解度や見え方の違いに配慮した視認性、多様な食事制限に対応できる品目数と表示基準を兼ね備えた絵文字となっている点が当社の強みである。

災害時のコミュニケーションカードにも

「フードピクト」は、飲食分野のみならず、災害避難所への配備がすすむ避難者登録カード（総務省）や学校の教科書（文部科学省）にも使用され、認知度が向上している。

言葉や文化の違いを超えて、正確なコミュニケーションが実現する「フードピクト」は、日本のスタンダード・デザイン、おもてなしツールとして、東京オリンピック、大阪・関西万博等を契機とするインバウンド需要の高まりとともに、今後幅広い活用が期待される。

訪問 : 平成30年12月19日

創業年 : 2017年

業種 : フードピクトの企画・開発・販売

本社所在地 : 兵庫県神戸市

代表者 : 菊池 信孝

URL :

<https://www.foodpict.com/>



平和酒造



若き四代目当主
山本 典正 社長



『代々当代』 伝統的な酒蔵経営から路線変更 次々とヒット商品を生み出す！

伝統的な酒蔵経営からの脱却

4代目当主である山本社長は人材系ベンチャー企業での勤務経験を活かし、従業員一人ひとりが楽しんで仕事ができる社内体制を構築している。

酒造工程もこれまで杜氏だけしか知らなかったものをマニュアル化し全社員で共有。新入社員から「酒造り」に関わっているという意識を醸成。

社長はこれまでの経験より『ものづくりの理想郷』（インプレス社：2014年）、また、未来に向けたビジネスでの「新しい視点」「新しい価値観」示した『メイドインジャパンをぼくらが世界へ』（インプレス社：2015年 山田 敏夫氏との共著）を出版している。

積極的な人材登用 新卒採用募集に2000人

日本酒の酒蔵としては珍しく社員の新卒採用を積極的に実施。就活サイトで全国的に求人募集したところ若干名の採用枠に最大2000名の応募があった。同業他社でも当社を参考に新卒採用を始めたという報告もある。

大胆な路線変更

先代の頃までは安価なパック酒で業績を伸ばしてきたが代替わりの際に高級酒路線に転換。

日本酒「紀土」、梅酒「鶴梅」を発売し、いずれもヒット商品となっている。紀土は国外最大級の日本酒コンテスト「インターナショナルワインチャレンジ」において2014年から連続受賞中。（金賞・銀賞・銅賞）

近年では、酒蔵としては珍しいクラフトビール「平和クラフト」も製造している。

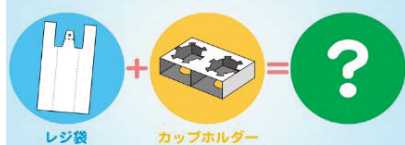
和歌山（地方）の小さな酒蔵だから目立つ

「地方」「中小」「ものづくり」といったこれまでネガティブだった言葉を自社ならではの強みにし、新しいチャレンジを続けるからこそ全国的に目立っている。

『代々当代』従来経営の継承にとらわれず、当代の人が自分の人間性を大切に、自分の考えや時代に合った自社のブランディングに取り組んでいく。

訪問 : 平成30年1月26日

もし、レジ袋だけでカップを持ち帰れることができれば…。



GOOD DESIGN AWARD 2016
特別賞「ものづくり」
GOOD DESIGN AWARD 2016
BEST 100



「袋」の視点で日常の課題を解決する 新商品を開発

研究開発型の包装資材メーカー

株式会社ミヤゲンは、1953年創業の包装資材メーカーである。紙袋の製造販売からスタートし、その後プラスチック原料を主体とした包装資材、漁業資材、観光物産、家庭雑貨、販売促進用品と広範囲な分野で事業を展開している。

近年は、リサイクル商品の開発とバイオマスプラスチックの研究開発に重点を置き、環境を考えた研究開発型企业を目指している。

新商品「キャリーカップ」の開発

自社商品として、カップ入りドリップコーヒー等のテイクアウト用袋「キャリーカップ」を開発した。

従来のレジ袋に紙製カップホルダーをセットした袋とは異なり、「キャリーカップ」は、カップ保持、手提げなど全ての機能を1枚のポリエチレンフィルムで一体成形したレジ袋となっており、資材コストの低減のみならず、レジ周りの時間短縮、保管場所の省スペース化、ゴミ減量化につながる事が期待される。

特許、意匠を活用

知財戦略を重視しており、「キャリーカップ」は製品と製造方法の特許を国内・海外で取得している。また、デザインについては意匠で権利化している。

2016年にはグッドデザイン賞「ベスト100」および「ものづくり特別賞」を受賞した。

地元の特許事務所を知財パートナーとして起用するなど、外部の専門家を積極的に活用している。

社員全員の知恵を結集

人材育成にも積極的に取り組んでいる。2016年、改めて「研究開発型製造業」として会社が成長・発展するには社員全員の知恵を結集することが必須と考え、意見を出しやすい社内の仕組み改善に取り組んだ。

「改善・商品開発提案制度」を再構築するなど社内整備に取組み、2年連続で年間の提案数が1,000件を突破するなど、社員の自発的な行動姿勢として成果が現れている。

訪問 : 平成30年12月13日

創業年 : 1953年

業種 : 包装資材の製造、販売

本社所在地 : 福井県敦賀市

代表者 : 宮元 武利

URL : <https://miyagen8.co.jp>